

# 突風・降雹に伴う農作物等管理技術対策について

平成27年4月13日

農 林 部

4月13日気象庁発表の「15日にかけての大気不安定について」によると、14日午後から15日にかけて、日本列島上空にこの時期としては記録的に冷たい空気が流れ込み、急な強い雨、落雷や竜巻等の激しい突風、降雹が予想されています。

以下の農作物技術対策資料を作成しましたので、適切な指導をお願いします。

## 共通事項

- 1 ハウスでは、支柱、支線、ターンバックル、ビニルなどを点検・補修し、必要に応じて筋交いを入れるなどして補強する。  
また、周辺に風で飛散する物がないよう整理する。
- 2 べたがけ資材やトンネル資材が強風等であおられないよう点検・補強するとともに、被覆資材のすそも土中に埋めるなどの対策を講じる。
- 3 局地的には非常に激しく雨を伴う恐れもあるので、排水溝を設置し排水ができるよう準備する。  
また、冠水または浸水したほ場は速やかに排水する。

## ねぎ

- 1 茎葉を損傷した株は7～10日程度で出葉して回復するので、当面は、べと病、黒斑病を対象とした薬剤散布を行い、回復を見てから追肥等を行う。
- 2 軟腐病や白絹病の発生が予想されるため、ほ場に入れるようになったら、中耕または土寄せ前に薬剤を株元に散布して予防する。

## ブロッコリー(春どり)

- 1 花蕾が出来ているものは薬剤の散布を行わず、損傷部分を整理し、早期に出荷する。
- 2 花蕾が小さい場合は、薬剤散布を行い、病害発生を予防する。

## キャベツ

- 1 出荷間近なもので被害の軽いものは、出荷時に丁寧に調整を行い商品価値を落とさないようにする。

- 2 損傷が軽く、収穫までに日数を要する場合は、細菌病類の発生が懸念されるので、アブラムシの防除と同時に薬剤の予防散布を行う。

なし

- 1 多目的防災網を整備してある果樹園で、まだ網を広げていないところでは、早急に網を広げ、気象災害に備える。
- 2 すでに展張済みの園では、強風等により飛ばされないよう、ひもの緩みの点検等を行う。
- 3 多目的防災網のない園で、降雹等の被害を受けた園では、次の対策を行う。  
○開花期で花の子房や軸が被害を受けた場合は、健全な花そうや花を選んでていねいに人工受粉を行う。

茶

被害時の茶樹の生育ステージと損傷程度によって対策が異なるので、被害実態に応じて次のような対策を講じる。

1 整枝せん定

萌芽前後の被害の場合は放任する。

2～3葉期以降は損傷が著しい場合のみ新芽を刈り落とし、少ない被害なら放任する。

2 施肥

芽出し肥を施用していない損傷の大きい茶園では、速効性窒素肥料を窒素成分で10アール当たり10kg程度（硫安で50kg）施用する。

3 害虫防除

被害後はカンザワハダニが多発することがあるので注意する。

◎農薬はラベル表示だけではなく、購入後に変更された最新情報の有無を確認してから使用してください。特に注意が必要な農薬については、埼玉県農産物安全課のホームページでご確認ください。

<http://www.pref.saitama.lg.jp/a0907/nb/arfdnouyakutourokuhenkou.html>

《問い合わせ先》

共通事項・野菜	農業技術研究センター 革新支援担当 電話 048-536-6034
果 樹	農業技術研究センター 革新支援担当 久喜試験場駐在 電話 0480-21-1140
茶	茶業研究所 革新支援担当 電話 04-2936-2808

